

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ

クレアシンガポールでの 活動を通して得たもの



福岡県議会事務局 次長 武田 誠一

古来アジア大陸との交流窓口であった福岡は、現在においてもその交流拠点としてアジアとともに繁栄することを国際戦略の基本としています。



インドの世界遺産アグラ城から世界遺産タージマハルを望む

私がクレアシンガポールの次長として勤務したのは

2006年からの約3年間ですが、中国では反日暴動などが相次ぎ、企業活動においては中国一国に頼る経営に大きな危機感が持たれていました。

福岡県でも、海外戦略の対象地域の拡大を模索しており、中韓の東アジアに加えて、大きな発展が見込まれるタイ・ベトナム・インドの各自治体と提携を進めようとしていました。お話し向きに、2007年、シンガポール事務所の担当地域にインドが加えられました。

任地ではこれらの提携を進展させるため、活動支援として、提携先候補であるベトナム・ハノイ市、インド・デリー準州に何度も足を運び、先方の担当責任者との信頼関係を築きながら粘り強く交渉することで、これらの地域との提携実現に繋げることができました。

また、シンガポール事務所は自治体の経済活動の支援を強化していた時期で、タイやシンガポール、マレーシアでの旅行博に自治体ブースを出展したり、現地百貨店などを活用した自治体の農産物などの販売促進を支援したりと活動分野を広げていきました。2006年33万人であった3か国の訪日旅行者は2015年に約4.3倍の141万人^(注1)、日本からASEANへの農産物などの輸出額は、同様に約450億円から1,170億円^(注2)へと急拡大しており、われわれの当時の活動が多少なりとも役立っているのではないかと考えてきます。

ASEAN 経済共同体が昨年末に発足し、当時は軍事政権であったミャンマーが今後最も発展が見込まれる国のひと

つとなる中、県が設置した企業の海外展開支援機関におけるASEAN 案件が相談の半数を占めるなど、この地域の重要性は一層高まっています。

このような状況を受け、県においてもASEAN 関連の業務が急増し、県庁に戻り国際業務に携わっていた私にとっては、観光PRをする際の現地旅行社とのコネクションや企業の海外進出アドバイザー探し、優秀な通訳者の情報等シンガポール時代に出会った



クレア主催自治体研修会の事前協議でインドチェンナイを訪問

ASEAN 人脈がおおいに役立ちました。社会システムが発展途上の国においては、人と人との繋がりが、先進国以上に重要です。帰国して7年が経過し、シンガポールでの3年間で、仕事に有用なこのようなネットワークを多く築くことができたことが、一番の収穫だと改めて感じています。



チンゲイパレード〜多民族国家シンガポールの民族の融和をめざす祭

最後に、現地で一緒だった航空会社の支店長や新聞記者などの駐在員仲間の皆さんが、今はそれぞれの組織のトップや幹部になられており、仕事上の付き合いとは別に、楽しい飲み仲間となっていることも付け加えさせていただきます。

(注1) JNTO 資料より

(注2) 農林水産省作成資料より

プロフィール

- 1984年 福岡県庁入庁
- 1992年～94年 ジェトロ研修生(シドニーセンター)
- 2006年～2009年 クレアシンガポール次長
- 2011年～ 九州観光推進機構 海外誘致推進部長
- 2012年～ 福岡県商工部国際経済観光課長
- 2013年～ 福岡県国際交流局交流第二課長
- 2015年～ 福岡県総務部学事課長